

教科等横断的な視点で育むリアル避難所運営 1日防災学校の取組

羅臼町立知床未来中学校 学級数7 (校長 野 呂 幸 生)

I 本実践の概要

学習指導要領の趣旨を実現するために、各学校においては、生徒や学校、地域の実態及び生徒の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図ることが重要である。

こうしたことを踏まえ、本校では、教科等横断的な教育課程を編成し、防災を含む安全に関する教育として、「リアル避難所運営1日防災学校」に取り組んだ。

II 実践の内容

1 教科等横断的な教育課程の編成 (事前学習)

① 理科

火災発生時に、消火活動をどのような手順で行えばよいのかを、理科「化学変化と原子・分子(酸化と燃焼)」と関連付けた授業を行った。授業では、羅臼町消防署所員を講師に招き、生徒は、消火活動の体験を通して、消火のメカニズムについて学ぶことができた。



【理科の授業の様子】

② 社会科

自然災害と防災・減災への取組について、社会科の地理的分野「日本の様々な地域」と関連付けた授業を行った。授業では、羅臼町役場職員を講師に招き、生徒は、デジタルハザードマップを活用しながら、災害の発生時の行動について学ぶことができた。



【社会科の授業の様子】

③ 特別活動(学校行事:健康安全・体育的行事)

災害等の非常時から身を守ることの意義を理解し、必要な行動の仕方などを身に付けるため、根室総合振興局防災担当職員を講師に招き、生徒は、「Doはぐ(北海道避難所運営ゲーム)」を行い、実際に避難所を開設する際の留意点を学ぶことができた。



【特別活動の授業の様子】

2 1日防災学校における町内会と合同のリアル避難所運営

①防災テント、段ボールベッドの設営

第3学年は、避難する住民が安心して寝泊りできるよう、防災テントと段ボールベッドの設営を行った。設営に当たっては、羅臼町役場職員から指導を受けて実施した。



【防災テント、段ボールベッドの設営の様子】

②避難住民の誘導

第2学年は、学校に避難する地域住民を誘導したり、迎えたりする役割を担った。正午に鳴る防災サイレンを避難開始の合図に実施し、避難完了までに実際にかかる時間を測定した。



【避難住民の誘導の様子】

③防災食の提供

第1学年は、避難した地域住民に提供する防災食の調理及び提供を行った。アルファ米に水を加え、提供までにどのくらい時間がかかるのかを計時しながら実施した。



【防災食の提供の様子】

III 実践の成果(○)と課題(●)

- 防災教育について、教科等横断的に学習を進めたことにより、生徒は、これまでに学習した知識を体験に結び付け、自分事として、理解を深めることができた。
- 町内会など地域住民と連携・協働して避難訓練を実施することにより、生徒は災害等の非常時から身を守ることの意義を理解し、目的、場面、状況に合わせた行動の仕方などを考えることができた。
- 今後も継続的な取組とするために、年間指導計画の改善とともに他校種間の連携を図る必要がある。